～海洋高校生との交流を通じて得たもの～
～ ９年目を迎えた漁業士会活動 ～

京都府漁業士会　小南 彰弘

１ 地域の概要

京都府は海岸線の延長３２０ｋｍで、海岸に面して２市４町の自治体があります。沿岸部で１番大きな都市は人口９万４千人の舞鶴市で、次いで２万４千人の宮津市となっています。これに近隣の６町を加えた２市１０町の、合計約２７万人が海岸に近い所に居住しています（図１）。

この地域の産業人口は１１万５千人で、就業者数で見ると、製造業、サービス業、小売飲食業、建設業、農業の順となり、漁業就業者の占める割合は１%弱となっています。

図 1　地域の概略図

２ 漁業の概要

京都府の海面漁業と養殖業を合せた平成１１年の生産量は２４，４７３トン、生産額は５９億１千８百万円で、大型定置網漁業、大中型まき網漁業、小型機船底びき網漁業等が生産量、生産額に占める割合が大きくなっています。

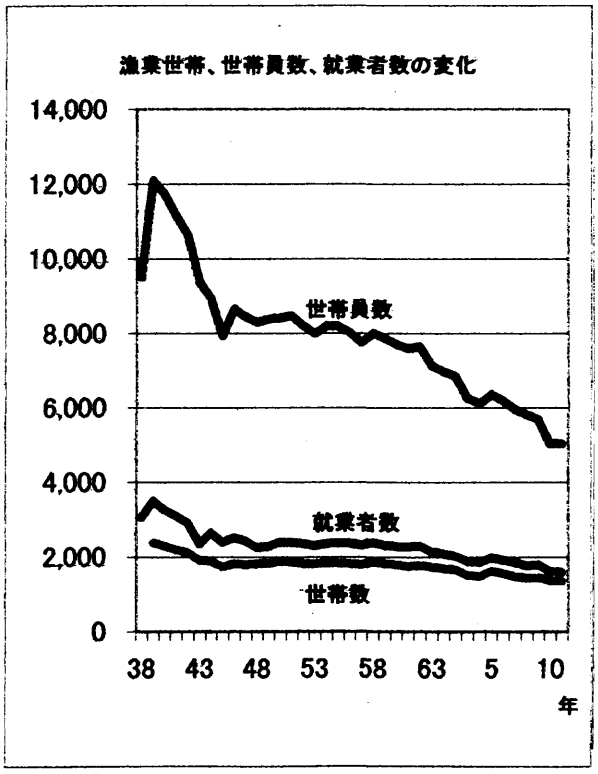

図 2　漁業世帯/就業者の変化

漁業世帯数は１，３５０世帯で、漁業就業者数は１，５８０名となっています。内訳としては、上記３漁業に雇われている者４１０名のほか、自営で、採貝・採藻、釣り・延縄、刺網、カキ養殖などに携わっている者が１，１７０名という状況です。

昭和４０～５０年代には、およそ１，８００世帯、２，３００名の漁業就業者がありましたが、昭和６０年代に入ってからは年々減少し、昭和５３年のセンサス時と比べると２９%減少しています。漁業世帯員数の場合は更に減少が著しく、３７%の減少となっており、漁家の家が少なくなっている様子が伺えます（図２）。

3 研究グループの組織と運営

京都府で漁業士が認定されたのは昭和６１年からですが、私たちの京都府漁業士会は平成４年に結成されました。当初は指導漁業士２名と青年漁業士１９名の計２１名でスタートしたこの会も、現在では、指導漁業士９名、女性漁業士５名、青年漁業士２９名の計４３名の会員数になっています（表１）。

会の運営は、総会で承認された事業計画に基づき、役員で細部を調整しながら実施計画を作って、参加可能な者が参加する形で事業を実施しているもので、費用については、会費、関係団体からの助成金、補助金等でまかなっています。

表１　漁業士会員の内訳

主な業種	指導	女性	青年
定置網	5	1	17
底曳網	2	2	3
養　殖	1	1	1
釣		1	4
採介藻	1		4
計	9	5	29

4 実践活動課題選定の動機

漁業士会結成当時は、親睦と交流会を中心に、研修会や各種会議への出席などの活動をしていましたが、平成９年度に活動方針を策定し、現在はこの活動方針にしたがって活動を進めています。

漁業士会の活動は、「魅力ある漁村と活力ある漁業」を目指し、「人づくり」「新時代への提案」「海づくり」の３つをテーマとしており、具体的には、「人づくり事業」として、青年漁業士による水産教室、海洋高校生との交流会、漁協役員等との意見交換会を、「新時代への提案」として、将来を見据えた課題をテーマとした研修、内陸部の住宅地への鮮魚の直販キャンペーンを、また、「海づくり事業」として、ふるさと放流祭（本年度は第２０回全国豊かな海づくり大会）への参加、先進地視察、及び今後に向けた学習会などを計画し実施してきております。

海洋高校生との交流会については、平成８年度に、当時の副会長が海洋高校のＰＴＡ会長を務めていたことから、先生との話の中で、「生徒が漁業の現場を知らない、そのために、漁業に馴染みがなく、漁業に関心が持てない、従って漁業に就職する生徒がない。」といった現状を聞き、そういうことなら、何とかして生徒に漁業への関心を持ってもらおうということで、漁業士会が仲立ちとなって始めることとなったものです。

5 実践活動状況及び成果

海洋高校生との交流会については、平成８年９月４日に浜詰浦漁協にお世話になり、その後、新井崎、田井、養老の各漁協の御協力を得て毎年実施してきております。

表２　海洋高校生との交流会実施実績

実施年度	実　施　日	実施場所	参加者		
			（漁業士）	（海洋高校生）	（地元）
平成８年	９月４日(水)	浜詰浦漁協	９名	2年生１８名(女子5名)	約１０名
平成９年	9月2日(火)～3日(水)	新井崎漁協	７名	2年生１８名(女子3名)	約１０名
平成10年	9月2日(水)～3日(木)	田井漁協	７名	2年生１８名(女子3名)	８名
平成11年	9月8日(水)～9日(木)	養老漁協	７名	2年生１８名(女子3名)	６名
平成12年	9月6日/12月13日(水)	海洋高校	５名	2年生１９名(女子2名)	―

平成１２年度は、海の状況により現地での実施を中止したため、メニューを減らして、９月に水産教室を、１２月に調理教室を海洋高校で実施しましたが、海洋高校生との交流会の内容については、基本的には定置網の揚網体験、調理教室、意見交流会の３つを柱としています。

定置網の揚網体験（図３）については、関係漁協の定置作業船に乗船させてもらい、実際に揚網作業を手伝うものです。参加する海洋高校生は２年生ですが、１年生の時にも伊根漁協の定置網で１度実習を行っており、２回目になるとのことでした。

調理教室（図４）については、当日参加した漁業士が刺身の作り方を指導するもので、定置網で漁獲したものを使って行います。中には上手な生徒もおり、婦人部員さんが頼まれて出かけて主婦に教えるのに比べると、やはり魚の扱いになれているせいか、直ぐに上手になる－要領が良い－という婦人部員さんの感想が聞かれました。

表３ 交流会の流れ（平成１１年）

［１日目］
1 歓迎挨拶
2 地域紹介
3 水産教室
4 質疑等
［２日目］
5 定置網揚網体験
6 漁獲物選別体験
7 調理教室
8 サザエ中間育成施設見学
9 意見交流会
10 実習船見学会

意見交換会（図５）については、必ず一人１つは質問をするようにということで、予め聞きたいことを考えて臨んでもらっています。また、生徒からの質問だけでなく、地元の青年部員さんや理事者の方にも加わってもらっていますので、生徒に対しても質問を出してもらって、発言を引き出すよう心掛けています。

生徒達からは、定置網の従業員となった場合の雇用条件－給与、休日、勤務時間、保険・共済などの福利厚生など、就職を考えた真剣な内容の質問が結構出されます。

また、漁師の生活がどんなものかにも関心が高いようで、朝何時に起きて、いつまで仕事をして、休みの時はどんなことをしているのかといった質問が毎回必ず出されます。

交流会が終わった後は、感想文を書いてもらっていますが、漁業に対する知識が得られ参考になったという意見があるのは当然として、実際に仕事をしている人生の先輩から話を聞くことは色々感銘を与えるようで、○○さんの○○の話が良かったというような感想が出てきます。

もっとも、一番多いのは、定置作業船の上で帰港時に捌いてもらったイカが非常に美味しかったとか、朝食に食べた魚やみそ汁が旨かったというものですが、中には、（２回目からは気を付けていますが、）海を守れと言いながら、タバコの吸い殻をポイ捨てしていたとか、資源の保護と言いながら小さな魚が網に入って可哀想であるといった耳の痛い意見も有りました。

６ 波及効果

京都府内では、近年、地元地区内から就業者を得ることが困難になって来ており、定置網漁業等では機器導入・省力化によって従業員数を減らして対応してきております。

こういった中で漁業地区から水産高校へ進学する者も減って来ていましたが、学科を編成替えし、校名を海洋高等学校と変えたことにより、京阪神からも海と漁業に関心を持った学生が集まるようになり、意欲有る生徒が見られるようになってきたようです。

交流会での意見を聞いていても、地元の生徒達より、都市部から来た生徒達の方が、海や魚に興味を持っている様子で、船に乗りたい、海に関係する職業に就きたいといった意見が出てきます。また、毎回２～３名ではありますが、漁業をやりたいという生徒も出てきていました。

そういった中で、平成９年に、２名の海洋高校卒業生が府内のまき網漁業に就業した事例がありましたが、平成１１年には、平成９年度の交流会に参加した２名の卒業生が定置網漁業に、平成１２年には、平成１０年度の交流会に参加した２名の卒業生が大中型まき網漁業に、１名が定置網漁業に就業しています。

漁業士会との交流会を始めるようになってから生徒の雰囲気も変わってきたという海洋高校の校長先生の話もありますし、少ない人数ではありますが、毎年着実に漁業に就く卒業生が出ているということは、手前味噌にはなりますが、我々漁業士会の活動も一役買っているのではないかと自負しております。

表４　京都府内における近年の新規漁業就業者数の変化

	H６	H７	H８	H９	H10	H11	H12
雇われ就業者	(480)	(470)	(450)	(450)	(426)	(410)	・
新規就業者	７	１１	２５	１７	２０	２３	・
（うち新卒）	２	１	３	７	１	２	・
（海洋高校卒）	２	１	―	３	１	２	３

ちなみに、最近、文部省と農林水産省が連携して学校教育活動の中に実体験を取り入れていくような方針を打ち出しましたが、私達の取り組みはこれを先取りしたものと言えると思います。

７　今後の課題や計画と問題点

浜の中では、漁業士に対する認識は十分とは言えませんし、漁業士会そのものは地元で意思決定に参加できる立場にはありませんが、漁業士の中から、所属する漁協の理事などの役員になる者が少しずつではありますが増えてきていますので、色々な発言の機会を捉えて、漁業後継者の確保・育成に力になれるよう、自己の研鑽を積んで、重みのある発言が出来るように心掛けていきたいと思っています。

また、漁業士同士の交流を通じて、地域間の横の連携を取りながら、地区外の若い人が、地域にとけ込み易い雰囲気を作り出していけるよう、地元の協力・参加を得ながら、海洋高校生との交流会を続けていくつもりです。

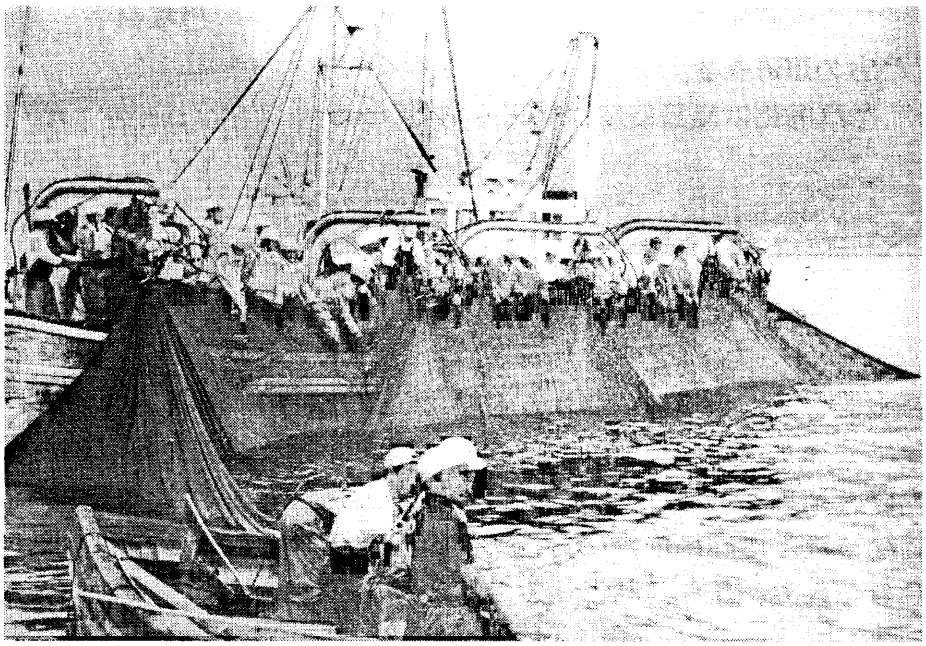

図3 定置網揚網
体験の様子

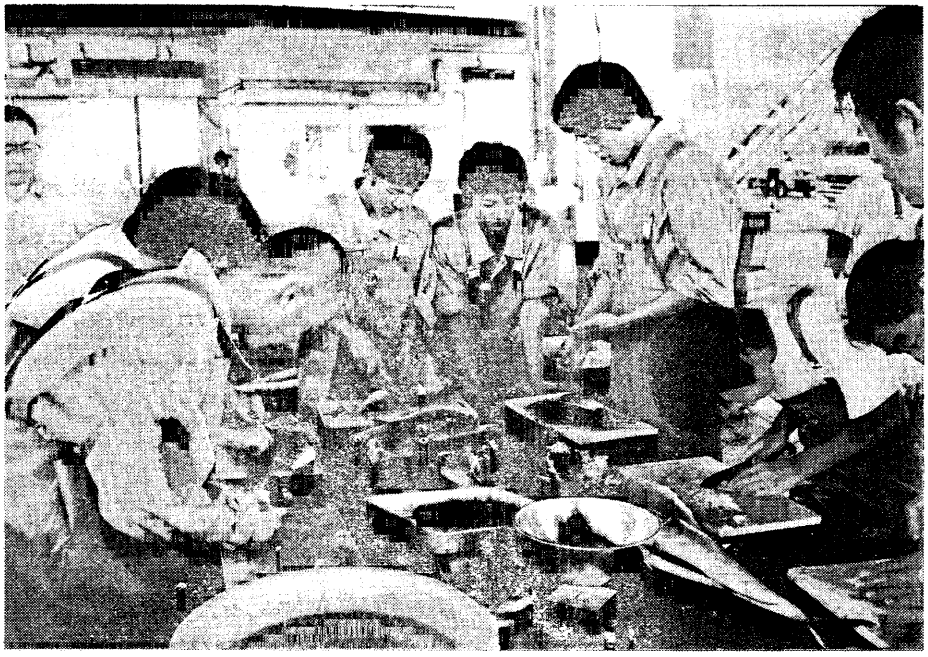

図4 調理教室の
様子

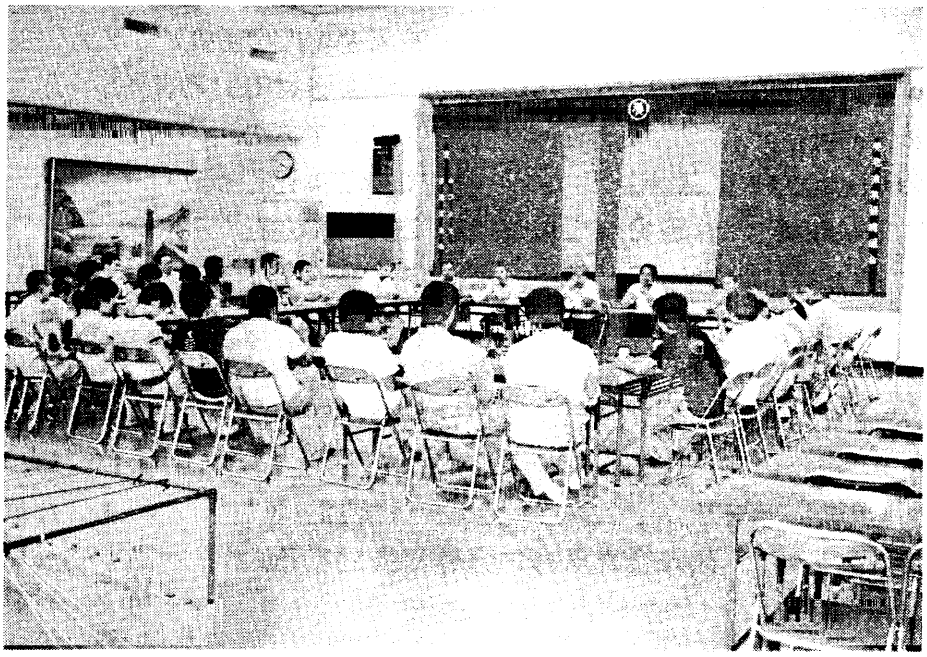

図5 意見交流会
の様子